

## 冬場のジャンボタニシ防除

今の時期、害虫の多くは冬越し中です。越冬中の害虫を防除することは、翌年の春先の害虫発生を減らす事にもつながります。今回は冬場のジャンボタニシの防除について紹介します。

### 1) ジャンボタニシの被害

ジャンボタニシ（正式名スクミリンゴガイ）は大型の巻貝で、柔らかい植物を好むため、**田植え直後のイネやレンコンの若芽**などで大きな被害が出ます。発生地域の水場付近では、特徴的な**ピンク色の卵塊**が見られます。また化学農薬での防除が難しく、ジャンボタニシは**難防除害虫**としても知られます。



ジャンボタニシ



特徴的なピンクの卵塊

## 2) ジャンボタニシの越冬と防除

ジャンボタニシは水温が 14℃以下になると活動を停止し、多くの個体が圃場や用水路で深さ 6 cm までの浅い土中に潜って越冬します。乾燥に強く、水がなくても半年以上生きることができですが、寒さには弱いです。そのため、冬場には下記の対策を行うと効果的です。

- ① 厳寒期前のロータリー耕耘：ジャンボタニシを寒さにさらしたり、直接破碎することができ、越冬成功率を下げるすることができます。
- ② 水路の泥上げ：ジャンボタニシの越冬場所を減らせます。

このような冬場の防除が、翌年の発生量の減少につながります。ただし、使用した道具や機械を洗わずに使いまわすと、他圃場にジャンボタニシが侵入してしまう可能性もありますので、注意が必要です。

## 3) 春先以降もしっかり防除をしよう

上にあるような冬場の防除を実施したとしても、生き残った個体によって、どうしても春先に被害が出てしまいます。必ず浅水管理や、侵入防止対策、薬剤防除等の防除方法を組み合わせて、春先以降も防除しましょう。

**!!! 注意点 !!!**

※ジャンボタニシには人体に有害な寄生虫（広東住血線虫）がいることがあるため、取り扱う際はゴム手袋やゴミ拾い用トングなどを使用し、素手では触らないようにしてください。もし素手で触ってしまった場合は、石けん等で手をよく洗いましょう。

農林水産省でも防除マニュアルを掲載しています。

QRコードを読み込むかクリックしてください！→

